



堀井 高

勤務先：

(株)アクア 技術部

〒060-0011 札幌市中央区

北 11 条西 20 丁目 2 番地 6

うめだビル

TEL 011-615-5033

FAX 011-615-5044

E-mail : horii.aqua@za.wakwak.com

専門：水産部門（水産土木）

1. はじめに

執筆依頼があったとき、はじめはお断りしようと思ひ、自分は1次試験のみでまだ技術士では無いと告げました。しかし、それでも構わないとの返事を聞き“これは2次試験合格へ自分を追い込む1要素になるかも”との考えが浮かびました。1次試験が必須となった新体制で技術士を目指す目的や抱負を述べる意義などは後で付けた理由で、『技術士に合格したくて』依頼を承諾したのが本音のところでした。

2. 試験対策

過去数回2次試験を受けましたが力不足と準備不足で叶わず、ついに1次試験から受けざるを得ない状況に追い込まれました。1次試験は主に基礎的知識や学力を問う試験です。卒業後20年を経た私は若い受験者に比べて明らかに不利です。そこで、過去2年の問題から不得意科目を洗い出してポイントを絞り、試験前の1～2カ月で集中的に記憶することにしました。

家に帰ると5歳の次男が玄関で待ち構えており、眠るまで離してくれません。また、好きな晩酌を止めて夜に勉強するのは長続きしそうもなく、自宅でやるのはあきらめました。図書館へも行って見ましたが、土日は学生が多くて席を取るのが難しく、パソコンを持ち込めないのでインターネットも使えません。そこで、土日のどちらか1日を会社で集中的

に勉強する事にしました。また平日はなるべく早く会社へ行き、途中で止められるインターネットや参考書での資料作りに当てました。

3. 結果

適性と専門問題は何とかありましたが、最後の基礎問題は合格基準の4～5割程度しか出来ませんでした。今終えた試験について同僚と話し、基礎科目で自信のあった1問を間違えた事が発覚。試験会場が寒く終了時間前に提出してトイレに行ったため専門試験の問題を持ち帰れなかったこともあり、半分あきらめて自己採点もしませんでした。

その後、基礎科目の解析2問に出題ミスがあり、それを選択した受験者は全員正解に。そのうち1つを選んだものの自信の無かった私は一転正解となり、合格基準が50%から40%に引き下げられたこともあって今回合格することが出来たと思います。

4. 反省と今後の抱負

「苦手科目の短期丸暗記方式」は、高度な専門的応用能力を備える技術士を目指すものとして望ましいものではありません。仕事や家庭との両立、年齢的な不利を克服するために苦肉の策として用いたものです。本来は現場での応用を目指し、原理原則を理解する勉強をすべきであったと反省しています。

言うまでもなく、私の次の目標は2次試験に合格することです。自分の専門は水産土木で、北海道の漁港や海岸構造物の計画・設計を行っていますが、世界にはまだまだ整備が不十分な国があります。技術士として北海道だけでなく海外での社会資本整備に貢献出来るよう、2次試験合格後は語学力やコミュニケーション技術を身に付けたいと思います。

5. おわりに

最後の追い込みでもともに勉強し刺激してくれた同僚に、勤務時間外の会社使用を黙認してくれた会社に、この場を借りてお礼を申し上げます。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。